

プロレタリア通信

No.5
1968
4.16

共産主義者同盟政治局

4.26、4.27、4.28 全人民的反帝斗争を

政府・防衛庁に爆発させよ

4.26 全国学生ストライキ、実力斗争を圧倒的大衆
結集で斗いとせよ、4.27、4.28 全国中央結集、
大実力斗争に総決起せよ

共産主義者同盟の当面する斗争スローガン（4.15政治局決定）

一、帝国主義の侵略・反革命に対決するヴェトナム 一、日帝のアジア侵略抑止、農民抑圧の成田空港建
革命・米黑人叛乱と結合し、革命的反戦斗争を 設粉砕

展開せよ 一、日帝のヴェトナム反革命加担強化、王子野戦病
院閉鎖阻止

一、日帝のアジア侵略「国益国防」路線と対決し 一、沖縄のB52基地化粉砕、新島射撃場設置粉砕、
帝国主義軍隊の確立「自衛隊強化」を粉砕せよ

一、日帝の沖縄「返還」にアジア侵略の前線基地化 一、日帝の侵略・反革命の国内治安体制「騒乱罪適
用」を大衆的反響で粉砕せよ

一、沖縄の核付返還粉砕、米軍基地撤去、
米軍政打倒、自衛隊遣返反対

〈当面の斗争のスケッチ〉

4/21(日)「ベトナム反戦・沖縄軍縮」国際青年共闘行

動中央集会」全国反戦主催 1時 日比谷

4/25(木)春斗 公労協、交通共斗スト

4/26(金)国際学生反戦ストライキ

4/27(土)「沖縄即時無条件全面返還要求国民大会」

同実行委(沖縄連主催)6時日比谷野音

全学連全国結集、総決起集会、「デモをもつて

結果」

春斗、公労協、交通共斗半日スト

4/28(日)沖縄ゼネストに呼応した全学連・反戦の全国

中央結集による、中央反政府斗争

防行庁、外務省、大宅閣デモ(時間場所未定)

(1)

わが同盟の当面する大衆斗争と組織の全刀突き

下のようになんて化しなげられない。

① 4/26、4/27、4/28、三連続斗争のすべを、互い

に経験をたした斗争として、三月斗争の限界を突破し

質量的に上まわる斗いとして、4/26、4/28連続的

発展的に実現しなげられない。

- ② 4/26 国際反戦ストライキは、とくに全学連を主体とした「決定的な大衆ストライキ斗争の実現と圧倒的な大衆的防行庁包囲デモを頂点とする全国斗争である。
- ③ 4/26 沖縄ゼネストと呼応したわれわれの斗争は、4/26ストの力を総力を首都中央に結集し、かつ、東京を中心とする地区反戦の全国的結集と結合して、いっそう徹底した実力デモを防行庁、外務省、取柄中絶に向けて爆発させる中央斗争を眼目とする。
- ④ 4/26、4/28を切断させぬために、4/27は特殊な位置を占める。公労協半日ストの真の政治的方針は、なかを明示し、圧倒的労働者大衆に4/28斗争との結合を組織するべく、全国結集した学生部隊と東京の反戦部隊を集中しなげなければならない。
- ⑤ したがって4/27斗争は全国的に、われわれの4/26、4/28斗争の決定的爆発を継続する過程のステップ斗争として位置づける。
- ⑥ 5/1メーデーは、四月の革命的政変をもちこみ、極めて大衆的労働者市民の戦斗的メーデーとして復活せしめることを全国各地で追求すべきである。
- ⑦ 次の斗争行動計画を基準に、前進せよ。

の東京の学生は単純でも26防行庁斗争、四反戦的組織

の爆発的組織を軸として中心に調整させ、4/28斗争を

拡大するに絶命的暴力部隊をもって闘いゆく中核の

役割を担うとしてに担いさせ

に東京の反戦部隊は多約簡潔な行動を4/28最大限の

勢に組織し、首都防行庁部隊の革命的な地位を確立させ

る。同時に地方の反戦、防行庁部隊は、4/26学生

との共闘を整理し、わがくとも4/28前まで、東京

の組織を切りまくる首都結集を闘いさせ

る。同時に地方の学生組織は4/26ストライキ斗争後

の勢に防行庁部隊へ主力部隊を新にに戦列に加わって

闘いとともに結集し、全学連のささげ総決起集会、

日比谷集会系にも参加し、4/28体制を確立させよ、

4/26、4/28の斗争如何は、まづに七回大会バンドの

消長を付けている。

(2)

4/26、4/28斗争の意義とかくとく巨額には、

① 斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

4/26、4/28斗争の政治的性質、云いかえればいかなる戦略的

方向が大衆を組織した一翼として増大する物質力とし

てあらわれなければならぬということである。

つ、個別諸斗争の徹底した追求のうえにその限界を全回一中央斗争という包括的斗争形態によって突破し、更に、三月段階の党派的限界を、大衆ストライキに支えられた暴力斗争としてのリこえることである。

運動の拡大を党派的暴力斗争へ部隊への同心円的拡大に歪化せず、それが党派的独自の宣伝、煽動組織活動にまつてストライキという形態に媒介されて新に創出されることと斗争の質量的高度化の眼目である。ね、るうえに連綿暴力斗争をやりきらねばならぬ。

③ 本三に騒乱罪適用のどうかだが、新に階級斗争の条件を規定している。騒乱罪適用は破防法としてなれる、侵略、反革命の国内治安体制であり、目的の主要改革と不可分である。侵略に成するわれわれの暴力斗争の常態化に対してこそ暴力の改革の企図がある。反戦は实际的革命戦争、叛乱と結合して、組織的に暴力が大衆を生きた斗争に一変して結束せしめて反戦する以外にはない。斗争の暴力性を放棄したり、自らのせきい構いのみといこもった暴力斗争の自己満足に陥ってヒリする傾向を断平ララくだねねばならぬ。

4/26 4/28 ストライキ斗争の結合した暴力斗争の新形態はこゝにある。

④ 本四に、第四主義の新しい傾向が大衆と拍撃役に介階と再編を現実の日漸的改変において追ってきているとき、分解と再編をわれわれの戦略スローガンに第四主義の侵略、反革命に抗し、实际的階級を根を世界革命に転化せよ、に統合する一歩を、生きた運動の物質力において斗いとするのである。

全学連、反戦の分解傾向に対し奥の統合がマンバハゲモニーの生きた運動に物質力の連綿的存続位は党活動と結合することによってしかかちとれたい以上、中央、全回において、全学連のストライキ暴力斗争、反戦部隊の質量の決定的主流派確立を4/26 4/28で実現することによって、三月斗争を革命的に止揚することである。

(3)

組織方針の基本については4。
党派関係、弾圧対、校対については6号。